



[特集: 体の変調と五行の関係]

東洋医学を理解するうえで、知っておかなければならない3つの理論があります。その3つとは「天神合一思想」「陰陽論」「五行論」です。今回は「五行論」について纏めてみました。「五行論」の考え方のルーツは、古代中国の宗教観にあるといわれています。日常生活やその生産活動の中で不可欠な基本物質、「木、火、土、金、水」の5つで全てが説明できる思想を治療や診断に応用した理論です。

「五行論」を医学に応用する為には、五行と身体の中にある臓器を関連させる必要がありました。そこで古代の中国では、体の中(体腔)で比較的大きく充実している五臓(肝、心、脾、肺、腎)と六腑(胆、小腸、胃、大腸、膀胱、三焦)のそれぞれの特性に合わせ「木」、「火」、「土」、「金」、「水」に割り当て関連性を説きました。

医療を志す先人たちは、人体の生理や病気を解明しようと、健康な人や病気の人の「行動」「気質」「思考パターン」「食習慣」などあらゆる角度から観察し統計を取り続け表にまとめものが「五行色体表」になります。

この「五行色体表」をみると五臓に変調をきたし易い気象状況(五季)(五悪)や五臓が変調した時の症状の皮膚の色(五色)、感情(五志)、五臓を補う食物(五果、五菜、五穀、五畜)など多岐にわたり分類しました。この五行の色体表は、治療方針として非常に有益です。しかし、これが絶対というものではありません。これを参考に診断し効果的な治療法を見出す手がかりを得るツールとして今も活用されています。

五行	木	火	土	金	水
五臓(心包を加えて六臓と呼ぶこともある)	肝	心	脾	肺	腎
五腑(五臓に対応する腑)	胆	小腸	胃	大腸	膀胱
五官(五臓の病気があらわれる部位)	目	舌	唇	鼻	耳
五主(五臓のつかさどる臓器)	筋	脈	肉	皮	骨
五液(五臓が病んだ時に変化がある分泌液)	涙	汗	涎	涕	唾
五華(五臓の変調があらわれる部位)	爪	面	唇四白	毛	髪
五神(五臓に宿る精神)	魂	神	意	魄	志
五季(五臓が属する季節)	春	夏	長夏	秋	冬
五悪(五臓が嫌う外気)	風	熱	湿	寒	燥
五労(五臓を病みややすくする動作)	行	視	坐	臥	立
五色(五臓変調の際の皮膚の色)	青	赤	黄	白	黒
五志(五臓変調の際の感情)	怒	喜	思	憂	恐
五動(変調時にみられる症状)	握	憂	噦	咳	慄
五病(変調時にみられる動作)	語	噫	吞	咳	欠
五臭(変調時の体臭・口臭)	そう	焦	香	せい	腐
五味(変調したとき好む味)	酸	苦	甘	辛	鹹
五声(変調したときの声)	呼	笑	歌	哭	呻

五行色体表を利用して効果的な治療法を見出すために必要な考え方として知っておかないといけない事が更にあります。それは「相生・相克の関係」です。「相生」とは「木」が燃えて「火」が生まれ火で燃やされた木は「土」になり、その土から「金」が生まれ、鉱物が含まれる鉱脈に沿って「水」が湧き出、その水が木を育むという考え方で、全ての物が循環している関係を言います。これに対し「相克」は、「木」は土に根を伸ばし「土」を塞ぎ止め、「水」は「火」を消し「火」は「金」を溶かし、「金」は「木」を切る材料となるように、お互いを打ち滅ぼしていく関係を言います。

